



15
6057
1

井榮

56-4148

御園藏

御園藏

ふ 年 孫 生 大 少 也 貞 徳 永 代
記 子 俳 書 子 振 行 一 七 世 上 小
ひ 心 流 流 子 老 嵐 ぬ ら っ せ
ま 九 斗 一 毛 一 理 心 志 一 心
唯 也 心 一 心 一 心 一 心 一 心 一 心
系 母 一 心 一 心 一 心 一 心 一 心 一 心

①

②

一〇三〇回末の地蔵堂よりし衆の
 来りておののりて座より今するなる
 衆のしよふ代に成り衆のしよふなる
 くるる看取のりたるの成りなる
 一〇三〇回末のりたるの成りなる
 貞徳永代に成りたるの成りなる
 う能得系に成りたるの成りなる
 一〇三〇回末のりたるの成りなる

一〇三〇回末のりたるの成りなる
 貞徳永代に成りたるの成りなる
 う能得系に成りたるの成りなる
 一〇三〇回末のりたるの成りなる
 貞徳永代に成りたるの成りなる
 う能得系に成りたるの成りなる

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
非文

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿



松永氏道遊軒貞徳翁
 又長頭丸明心居士

竹久丸の如くは親とて是号と
 する如く

元禄六年

八月

雲風子

林鶴



永代記返巻目録

一 西の巻の事 一 歸急巻の事

一 時代れ事 一 可成借の事

一 畫圖の事 一 自叙れ事

一 系圖の事 一 社名考の事

凡て千二條ありし



○貞徳永代記序文返巻

一 流流のふけ永代記と振行とる貞徳は
那備系財の事小貞徳系系圖と推是小
つりせ一秘案の事貞徳と振行とる
死とるこころ秘案は貞徳つりよるこころ
おと事とるこころ人おとつりよるこころ系
明とるのつりよる推是とるこころおと事とる
流流の永代記つりよるこころおと事とる
是とる推是とるこころおと事とる
一 流流のつりよる推是とる

わつらゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり

牙子たふも何回も一奥書の人数もられた
人れおおもらゝくつらゝあつらゝにあり
推量しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一あつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり
らゝあつらゝくつらゝあつらゝにあり

①

③

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿

①
 ②
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a list of names and dates. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

111

111

Handwritten text in a cursive script, continuing the historical record or list. It includes several lines of text, with some characters appearing to be dates or specific names.

112

112

一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟

一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟
 一、此の書は、
 眞の古蹟

①

②

此能書一の世をれ一の世一貞徳乃るも清
らよ貞徳乃のすきなり言程なり多岐言と
作らり休められし貞徳師よそある一とあ
りしれよ是事一の言よわしんその方う視一
貞徳乃乃のいかりしなりう一死くかてさ
をゆかりせらるる人よ對一してら事よわ
らぬ清流一人よかし合一て系

一仙如と西巻乃の由と才二古今書之を
ししや一とまうれたり人とえしと古ま人と
巻乃よとら梅盛正由ととこのうらとらとせ

ししととめよ下より後一とて西巻一と
織女しととたり世のめよのらひとてこれ
いひか、偏執我懐よりいひまより他と言れわ
しらうもの清流と巻乃一とて貞書乃人数も
入てやうしとらるるや一とたに中一れるりれと
世の人乃わらりつととゆへに世を今書之を
うれらり清流も古今集おせしれらり亭
おく他是もよひ因名の渾らりまらるる世なれ
それらり世ら事らうととれ古今わあ集乃
やうすとらうとらとらととあわらわらゆ一と今

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

家友りしをせむとて清流貞本とていふ
枉感の有るもなすとて多岐の景圖
と批量なりといふは但ちわづらひし九の
さられ敷きつし清流の面成るをわらふこ
か洲執事とていふ者なりといふと執事
さられ休借なりといふ事自慢するといふ
さられまゝなりといふは自徳をいふといふ
茶中より執事とて扱はるひやうといふ
ゆゑ顔のいけなりといふは執事といふ
たゞいふるは他求代記のいふことなり

とまゝなれし今より詭借もわづらひし感あり
り清流の面成師見奉る自徳なくといふ
意なくいふもいふは自ひの茶中といふ
自徳の事といふはいふは清流の事といふ
わづらひの意なりといふは清流の事といふ
なりといふは清流の事といふは清流の事
わづらひの事なり

序文を答へ

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

自徳

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿

自徳

④
⑤
清くしぬゆるい法儀——とていふ自徳流のみあり
清儀の大方なりけり

一 名師の藝苑に揚ぎ——とていふ揚ぎのあり
ふも——とていふふも——とていふ今真字序に揚ぎ
今之同じ人を事とすはれをさるぬ
理く——とていふ人をも——とていふ
一 宗の神祇と自徳の宗の神祇の神祇
れ起信文のいふ——とていふ其文の
——とていふ詞のいふ——とていふ
り人の清儀のいふ——とていふ

——とていふ自徳の宗の神祇の神祇
のいふ——とていふ其文の
——とていふ詞のいふ——とていふ
り人の清儀のいふ——とていふ
——とていふ自徳の宗の神祇の神祇
のいふ——とていふ其文の
——とていふ詞のいふ——とていふ
り人の清儀のいふ——とていふ

一 自徳の宗のいふ——とていふ華堂の宗の
——とていふ自徳の宗の神祇の神祇
——とていふ自徳の宗の神祇の神祇
——とていふ自徳の宗の神祇の神祇

よのゝのりよは^{（五）}四つくりも^{（六）}一もつ事一もつ下
双^{（七）}一は光輝をねく共ありつるよはにらるは
わつらんして^{（八）}ありわれ^{（九）}の^{（十）}は^{（十一）}つらん^{（十二）}の^{（十三）}つらん
物言と一巻を御入るまは^{（十四）}つらん^{（十五）}の^{（十六）}つらん
よはにらるは^{（十七）}つらん^{（十八）}の^{（十九）}つらん^{（二十）}つらん
よの古人の真の序^{（二十一）}よはにらるは^{（二十二）}つらん
三光院のよはにらるの^{（二十三）}つらん^{（二十四）}つらん
よはにらるは^{（二十五）}つらん^{（二十六）}の^{（二十七）}つらん^{（二十八）}つらん
よはにらるは^{（二十九）}つらん^{（三十）}の^{（三十一）}つらん^{（三十二）}つらん
よはにらるは^{（三十三）}つらん^{（三十四）}の^{（三十五）}つらん^{（三十六）}つらん

よはにらるは^{（三十七）}つらん^{（三十八）}の^{（三十九）}つらん^{（四十）}つらん
よはにらるは^{（四十一）}つらん^{（四十二）}の^{（四十三）}つらん^{（四十四）}つらん
よはにらるは^{（四十五）}つらん^{（四十六）}の^{（四十七）}つらん^{（四十八）}つらん
よはにらるは^{（四十九）}つらん^{（五十）}の^{（五十一）}つらん^{（五十二）}つらん
よはにらるは^{（五十三）}つらん^{（五十四）}の^{（五十五）}つらん^{（五十六）}つらん
よはにらるは^{（五十七）}つらん^{（五十八）}の^{（五十九）}つらん^{（六十）}つらん
よはにらるは^{（六十一）}つらん^{（六十二）}の^{（六十三）}つらん^{（六十四）}つらん
よはにらるは^{（六十五）}つらん^{（六十六）}の^{（六十七）}つらん^{（六十八）}つらん
よはにらるは^{（六十九）}つらん^{（七十）}の^{（七十一）}つらん^{（七十二）}つらん
よはにらるは^{（七十三）}つらん^{（七十四）}の^{（七十五）}つらん^{（七十六）}つらん
よはにらるは^{（七十七）}つらん^{（七十八）}の^{（七十九）}つらん^{（八十）}つらん
よはにらるは^{（八十一）}つらん^{（八十二）}の^{（八十三）}つらん^{（八十四）}つらん
よはにらるは^{（八十五）}つらん^{（八十六）}の^{（八十七）}つらん^{（八十八）}つらん
よはにらるは^{（八十九）}つらん^{（九十）}の^{（九十一）}つらん^{（九十二）}つらん
よはにらるは^{（九十三）}つらん^{（九十四）}の^{（九十五）}つらん^{（九十六）}つらん
よはにらるは^{（九十七）}つらん^{（九十八）}の^{（九十九）}つらん^{（百）}つらん

（一）

（二）

①
一 存の命よはまほむとて
人なむとて
わらわら
自徳と作
何の事
自徳
陽流と作
あつち

一 存の命よはまほむとて
人なむとて
わらわら
自徳と作
何の事
自徳
陽流と作
あつち

御もく文音
作らむ
人なむ
わらわら
自徳
陽流
文音
初め
御もく

④
④
なまのこゝろをなまのこゝろにまよへし
くはしめたるをいへば、藤原の命にたはけ、痛しけ
らば、いと昔の報りしに、流し、まよへし
まよひ、いと昔の報りしに、流し、まよへし
まよひ、いと昔の報りしに、流し、まよへし
まよひ、いと昔の報りしに、流し、まよへし
まよひ、いと昔の報りしに、流し、まよへし

才一と巻と一也

